

第10回平成27年度第3回 豊川市子ども・子育て会議 会議録（要約）

平成27年12月21日（金）
午後1時30分～午後3時
豊川市勤労福祉会館 視聴覚室

1 あいさつ

白垣会長によるあいさつ
（略）

3 議事

(1) 子ども・子育て支援事業の進捗状況の確認資料について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・大筋良いのではないかと思う。比較評価のうち、“実際のニーズ量”と“実際の確保方策”を比較したものは、他が分母を“計画上の確保方策”に統一したのに比べ異質な感じはするが、実際どうだったかを検証する上で必要かと思う。ただ、会議の趣旨からすれば、最初の3つの評価（実際のニーズ量と計画上の確保方策、実際の確保方策と計画上の確保方策、実際の利用者数と計画上の確保方策の比較評価）がなるべく“◎”になるように、評価検証していくべき。
- ・評価の幅として、90%、110%とか、70%、130%というのは、甘い気もするが、根拠はあるのか。
（事務局）いろいろな資料を参考に作成した。事務局としては決して甘い評価が欲しくて設定した訳ではないのだが・・・。
- ・評価の対象となる人数等の母数が、10数人など少ない事業もある。そういった場合、1名違うだけで率が大きく変わってくる。だから、このぐらいの幅はあっても良いと思う。
- ・“◎”をたくさんもらえば良いというものでもないと思う。“◎”の事業の中にも、改善や検討の余地はあると思う。
- ・改善できるだけの潤沢な予算があり、それを行使する権限がこの会議に委ねられているのなら、シビアな率を設定して評価しても良いが、現実はそのようなシビアな評価を設定して、高い目標を設定しなおしても、すぐには改善できるだけの財政余力は無い。また、その年だけ瞬間風速的に厳しい評価となる可能性もあり、それに振り回される恐れがある。評価の幅に余裕を持たせた上で、少しずつ調整していった方が良いと考える。
- ・評価コメントの欄は、単なる事実説明ではなく“◎”だが云々”というように、単純に◎や○の数だけで評価できない部分をしっかり書くべきと考える。
- ・表を見れば分かることは、評価コメント欄にいちいち文章化する必要は無いと考えるが・・・。
- ・一度これでやってみて、実際に事業を進める中で、「この評価では甘すぎるのでは。」とか、逆に「厳しすぎる。」ということも想定される。その際に、この資料を見直すということも考えられる。
- ・あまり細かい単位で評価せずに、例えば放課後児童クラブであれば、小学校単位で出さずに事業全体としてどうだったかを評価するという考えもあると思うが・・・。

（事務局）放課後児童クラブは、全体だけを見ると評価が高くなる可能性が

あるが、小学校単位で見ると課題のあるところもあるので、このまま小学校単位で評価したいと考える。

(事務局) 評価コメントの欄は、「計画上はこうだけれど、実際はこうだった。」ということコメントし、「それを踏まえて次年度以降どうしていくか。」を今後の方針欄に記載していきたいと考える。

- ・“◎”は、日本語で言うと「大変良かった。」、「○”は「良かった」である。70%の達成率で「良かった」と評価することに抵抗がある。
- ・一般的にはプラスマイナス30%で「良かった」という評価で構わないと考える。甘すぎはしないと考える。

(事務局) 当然“◎”であっても、見直すべき点があれば評価コメントとして記載するなどして、しっかり検証していきたい。

- ・放課後児童クラブの欄で、西部や北部といった単位では“◎”なのだが、その内訳として小学校単位で見っていくと、ほとんど“×”である。数字のマジックなのか。

(事務局) 児童クラブは小学校ごとに事情が異なるので、全体として評価が良くても、個別に見るとそうでない場合もある。客観的に評価していただくためにも、学校単位での結果を提示していきたい。

- ・西部や北部で“×”が多いのは、ニーズ量に対して確保方策が多すぎるからそういう結果になっている学校が多い。そういうところは、“×”の評価のままでもいいのか、考えた方がよい。

(事務局) 事情があって“×”となっている部分は、評価コメント欄に書くなどして、今後の方針を考えていきたい。

(2) 地域型保育事業の設置に係る意見聴取について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・審議とは言うものの、実質的には計画は進んでいる。法律上はあらかじめ意見を述べることになっているが、「市として不足しており、それを充足するものである。」ということが、この会議で確認できれば良いか。

(事務局) はい。

- ・今後は、こういう小さい民間施設ができるのを待つ感じになるのか。

(事務局) 今回こういった事業者が現れたのはうれしいことである。しかし、長期的に考えた場合、人口減少は確実であり、既存の保育園で全てまかなえてしまう可能性はある。過度に民間企業が参入してくるよりは、既存の民間保育園などが小規模保育事業に参入していただければと考える。

- ・計画上は、量の見込みは微減で、確保方策を増やしていくということになっている。5年後の確保方策までまだ増やしていく必要があるが、その部分について、民間保育園が事業を拡大していただければということか。

(事務局) はい。

- ・この会議としては、どちらかと言えば全国展開の大型企業が参入してきたときに、市としてどうするかという点を議論することになるだろうか。

(事務局) はい。そういったケースが発生したときに、現状や将来予測と照らし合わせて過剰供給なのか、必要なかを論ずることになる。また、認定をする限り、国・県・市から補助金を出すことになるので、

予算的な話も一方では考える必要がある。

(3) 平成28年度幼稚園入園・保育所入所申込状況について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・特に無し。

(4) あかさか児童館の改築について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・街道から児童館・保育園に入るT字路のところに、カーブミラーがほしい。自転車が急に出てきて危ないことがある。
(事務局) 所管課に伝えておく。

(5) 利用者支援事業について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・組織としてはこう考えるが、「実際にはやってみないと。」というところもあるのか。
(事務局) はい。ただ、地域にネットワークを作っていくなど、アウトリーチ型で地域に出て行く形で進めていきたいと考えている。
- ・専門員のほかに支援員を配置するのか。
(事務局) 支援員と位置づけるにも研修の受講が要件となる。研修についてもなかなかハッキリしていない部分があるので、将来的な話として、そうしていければと考えている。
- ・子ども健康部の中に、保健センターの成人担当も入るのか。
(事務局) 入る。つまり、「子どもの健康 部」ではなく「子ども・健康 部」というイメージである。
- ・そこに専門員を何人置くのか。
(事務局) 母子保健型、基本型それぞれ1名ずつの予定である。
- ・支援員は中学校区単位に置くのか。
(事務局) いきなりではなく、まず来年度は、支援センターに置く基本型の専門員が中心となって、地域のネットワークづくりから始めていきたいと考えている。
- ・地域のネットワークは、基本型と母子保健型がそれぞれ別々に動くのか。
(事務局) そこは十分に連携をしながら動かなければいけない部分である。ただし、調整はこれから行うところである。
- ・組織として図示するところなのだろうが、これで見ると基本型と母子保健型が融合していくという部分が感じられない。
- ・それは資料の作り方の問題であろう。実施体制としてはこうなるが、関係部署を示しているだけである。
(事務局) 実際に事業を進めるうえでは、利用者支援事業の基本型・母子保健型のみならず、要保護児童の体制や児童発達支援体制もかなり重なり合って融合して事業を進めることになる。対象者が重なることも大いにあり得る。
- ・部署の関わりは分かったので、事業がどう融合し、重なるのかを示してほしい。利用者側から見た事業のあり方・関わりを示してほしい。

(事務局) 考え方としては、一番最初に利用者支援事業が取っ掛かりの窓口になるのかなとイメージしている。いただいた意見を踏まえてさらに検討を進めたい。

(6) その他

(事務局より) 次回3月ごろ開催の予定。